



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第 55 号

発行日
平成 26 年 3 月 1 日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|--|-----|--|
| P2 | 平成 25 年度 会員の集い・研修会 | P7 | 会員自主観察会＜冬鳥観察会＞ |
| P3 | 「入浜池調査および維持管理作業
の実施報告」発表の概要
トンボ生息地環境整備 | P8 | 第 1 回アジア国立公園会議
みせん俳壇 |
| P4 | 弥山登山道補修および清掃活動
会員自主観察会⑦ 弥山新春登山 | P9 | 南大東島って？ |
| P5 | パークボランティア研修会 | P10 | 宮島二流記（その 17） |
| P6 | 海岸漂着ゴミ回収事業
入浜定点観測⑧ | P11 | 「二十一町石」下半分発見
「くぐり岩」定点観測を始めました
編集後記 |



「宮島水族館バックヤード」

会としては 2 回目のバックヤードツアーです。改装後のバックヤードは、床もドライで明るく快適な場所になっていました。出演中の水中生物を効果的にみせるため、照明が醸し出す神秘的な雰囲気は独得です。（P5に関連記事）（文・写真 平田広三郎）

4月5日(土) 総会

平成 26 年度 PV の会・定期総会を下記の要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4 月 5 日（土）9:30～12:00 （受付 9:00～ ）

場所 杉之浦市民センター大研修室

※ 欠席の人は委任状を提出してください

※ 午後から入浜池補足調査および小なきり浜の観察会・清掃活動を実施します

平成 25 年度『会員の集い・研修会』開催

平成 25 年 12 月 7 日（土）1.「会員の集い」、2.「研修会」、3.「年末懇親会」が、宮島市民センターおよび山村茶屋において開催された。

参加者：足立 岩崎 大西 小方（嗣）小川 恩田 川崎 河村 菊村 北野 黒木
小林（寛）佐伯 坂本 佐藤（佐）佐藤（庸）島 末原 兎谷 中道 平田（広）
檜和田 舛田 松田 村上 柳瀬 横路 呼坂 六重部 （会員の集い・研修会出席者）
環境省 榊自然保護官 柴原自然保護官

1. 「会員の集い」 9：15～12：00

・榊自然保護官あいさつ

宮島 PV の会も広く認知され、今年度は 7 月国土交通省（海の日・海事功労者）、9 月環境省（瀬戸内法制定 40 周年記念・瀬戸内海環境保全功労者）の表彰を受けられた。また会員の登録更新時期になったのでよろしくお願いしたい。

・柴原自然保護官あいさつ

事故なく活動を終えられてなによりです。弥山の展望台の改築を 12 月 6 日に終えた。

・村上会長あいさつ

順風満帆の時こそ好事魔多しで、コンプライアンスに気を付けたい。例えば地元の人達の感情に対する配慮、自分自身の高齢化による事故防止のための事故予見や安全に対する意識などです。

来年度の活動計画の検討に際しては、入浜の定点観測をどうするかということを考えていただきたい。ただ入浜池は皆さんの調査や整備により、環境見学の実験場になっていることも考慮していただきたい。

・整備部会の活動状況報告（末原部会長）

H26. 2 月 22 日は、（一般社団法人）広島県資源循環協会主催の腰細浦・入浜の清掃作業協力に変更する。

・観察部会の活動状況報告（小林部会長）

今年は 3 回の公募観察会を無事に終えることが出来た。6 月の干潟観察会（公募参加者 32 人）、9 月の入浜コース（同 44 名）、11 月の包ヶ浦自然歩道コース（同 22 名）でした。

・広報部会の活動状況報告（平田部会長）

「みせん」52～54 号を発行。パンフレッ

トは、3 種発行予定のところ「包ヶ浦自然歩道」については舛田さんの尽力により完成し、11 月の公募観察会に使用された。

部会の打ち合わせ

・整備部会の来年度の活動計画

高安ヶ原・青海苔清掃登山（陶晴賢記念碑探訪）を新たに検討したい。

入浜池の清掃は回数減とする。

・観察部会の来年度の活動計画

公募者にわかりやすく、主タイトルとサブタイトルをはっきりさせる。テーマも複数にしても！キャッチフレーズも考える。

子供を対象にするのか、リピーター（高齢者）を対象にするのか焦点をしぼる。

これまでは公募者にリーダーの説明のみだったが、体験型も検討する。

島外研修先は、古鷹山・大久野島・金輪島・絵島が候補に挙がった。

・広報部会の来年度の活動計画

「みせん」を継続発行

PV の会のロゴマーク作成の検討

2. 「会員研修会」 13：00～15：00

広報部会主催の会員講師による「入浜池調査および維持管理作業の実施報告」の講演がありましたが、項をあらためて記載します。

3. 「年末懇親会」 15：30～

紅葉谷公園の「山村茶屋」で 21 人が出席して行われました。会費が少し値上がりしましたが、名物のカキ、おでんやアナゴ井の食べ放題でした。でもお酒は自分持ち、ここらがつらいところ。ところがとんでもないことが起こったのです。「広島サンフレッチェ」の最終戦の後半ハーフが茶店のテレビに映ったのです。サンフレッチェが勝つか引き分けて日本リーグ優勝そして 2 連覇、そして勝ったのです。今年最後のビッグな出来事でした。

『入浜池調査および維持管理 作業の実施報告』 発表の概要

今回の実施報告は、「入浜調査報告（「みせん」増刊号・平成22年4月1日発行）」に次ぐものです。その後も熱心な会員の努力により調査を継続されてきたのですが、一応の区切りとして、それから平成25年までの成果を含めて発表されたものです。

発表の内容は、調査や維持管理作業に携わってこられた会員の、取り組んできた経過、各人の思いや成果のとりまとめでした。

※ 発表内容

1. はじめに 村上 光春
宮島および入浜の自然環境の状況や入浜池調査のきっかけ・意義の再確認を話された。
2. 「入浜池汽水化維持管理活動について」
末原 義秋 活動中の写真を使って維持管理活動の実態を話された。
3. 「入浜池と周辺の植物について」
六重部 篤志 四季を通じての調査による植物の成長をハマゴウなどの花～実の断面の写真を用いて実例の説明、またあの狭い面積に絶滅危惧種から要注意種まで存在する話をされた。
4. 「入浜池と周辺の野鳥について」
大西 順子 宮島・入浜池は「水辺の鳥」こそ見られないが、「山野の鳥」42種（留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥）にとって憩いの場所であることを話された。
5. 「入浜池の調査と概要について」
小川 加代 調査の経緯、調査ポイント、池の概要、モニタリング方法などを新旧の航空写真を含めて話された。
6. 「入浜池のモニタリングからわかること」
横路 晃 水質調査のデータ（塩分濃



熱心に聞く会員たち

度・水位・COD・PH）を基に池の環境変化を話された。

7. 「入浜池のトンボ相について」

松田 賢 入浜に出現した37種は既存文献にある島全体の54種に迫る数であること、主に止水性種で構成されるがミヤジマトンボ生息地とは異なるとみられること（多様性はかえって高い）、ヤゴの調査不足があるものの塩分濃度に関わる変化も見受けられることを話された。

8. 「講評」 環境省

・榊自然保護官 7年間のデータの蓄積は大変貴重なものです。今後とも調査を継続していただきたい。

・柴原自然保護官 ミヤジマトンボ生息地と入浜を見てみると、河口閉塞に伴う水の循環の悪さ（海水の入り込み減、山からの淡水の流入減）が見られ、ヨシが少なくなってヒトモトススキが多くなっていること。また最近の環境現地調査は5～6年で目標を見直す方向にあり、入浜調査も新たな目標を設定し、測定指標を決め直すのも一つの方法ではないかとの提起も話された。

以上 詳細な報告内容は近々発行される「みせん」追加増刊号を参照してください。（文・写真 平田広三郎）

トンボ生息地環境整備

日 時：12月3日（火）10：00～15：30
場 所：宮島

主催：ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会
参加者 岩崎 小方（嗣）川崎 小林（勲）
佐藤（佐）末原 中道 平田（広）宮本
他団体（広島県、広島市昆虫館、廿日市市、宮島水族館 25名）

10時に塩屋漁港を出発。今回の作業は3箇所の草刈り、ゴミ拾いおよび散逸土のうの整理でしたが、我々は2か所の海岸清掃でした。注目は池にヒトモトススキが繁茂していてトンボの成長に支障きたすので、5mぐらいの円形に刈り取り、その効果を見るという2回目の実験ですが、判定までには2年かかるそうです。効果を見るのが楽しみです。

（文・写真 平田 広三郎）

【弥山登山道補修 および清掃活動】

日 時：12月14日（土）9：00～15：00

場 所：獅子岩駅～弥山～大聖院

天 候：晴れ

参加者 大西 金山 河村 菊村 黒木
小林ペア 小林（寛）佐藤（佐）佐藤（庸）
渋谷 末原 兎谷 中道 錦織 平田（広）
檜和田 村上 柳瀬 山崎 横路 吉崎

酷暑の夏、短い秋も終わり、師走に入り
厳しい寒さが続いています。

今日は平成 25 年の年末を締め括る「弥山
登山道の清掃」が、宮島ロープウェイの協
力で行われました。午前中はロープウェイ
降り口から弥山山頂までの路面の清掃と溝
に詰まった土砂除去を行いました。山頂に
着いてから新装された弥山展望台を全員で
見学。プレオープンのため、売店は未だ営業
していませんが、真新しい木の香りに包ま
れており、特にトイレは快適でした。緑の
樹木の中に浮き上がったような白い建物の
前で、全員で記念撮影しました。吹き付け
る寒風の中、かじかんだ手で弁当を済ませ、
昼から山頂～大聖院入口までの大聖院ルー
トの清掃です。

このルートは、北西の風が吹き付ける個
所が多く、枯葉・溝の土砂も多く埋まって
大変な作業でしたが、全員の手際の良い作
業ですっかり綺麗になりました。

既に紅葉のシーズンは過ぎたとは云え、
まだまだ登山客が多く、皆さんから「あり
がとう」「ご苦労様」と声をかけて頂き作
業にも力が入ります。特に小さな子供連れ・
外国人観光客が多かったと思います。



大聖院あたりか！

総勢 23 名でほぼ予定通り 15 時に作業

を終了しました。これで新年登山者が気持ち
良く登山することが出来ると思うと、ス
ッキリとして良い気持ちになります。

寒い中での作業でしたが、皆様お疲れ様
でした。

（ 文・写真 渋谷 精二 ）

会員自主観察会⑦

{弥山新春登山}

日 時：1月11日（土）9：00～14：30

場 所：紅葉谷コース・大聖院コース

天 候：晴れ

参加者 足立 岩崎 小方ペア 黒木
小林（颯）佐藤（佐）佐渡 兎谷 中道
平田（広）松尾 村上 横路

週間気象予報が、週末には「今冬最強の
寒気来襲」を繰り返し報じていたこともあ
って、宮島栈橋に集合した参加者の防寒態
勢は万全です。いつものように町家通りを
紅葉谷登山口まで軽快に歩いてウォーミン
グアップ。登山口で「観天望気」し、服装
を再調整。

文部省の「弥山原始林」の石標を通り越
すと、いつもは花が咲き乱れているヤブツ
バキの群生林ですが、このところの寒さの
ためか、今日は花がほとんど見当たりませ
ん。

岩海を抜けると 12 号堰堤。ここからは天
然橋を挟んで石段と急坂、道端には昨夜来
の雪が残っています。標高 340m、右手に
ミミズバイの幼木が健在です。温暖地に育
つミミズバイのもみじ道最高地点です。

急坂の道は少し凍結しています。汗と息
と足元とに相談しながらゆっくり歩きます。
やがて弥山本堂前の広場。本堂横の「錫杖
の梅」の新枝には蕾がびっしりと付いてい
ます。弱りきっていた錫杖の梅も、関係者
の手厚い介抱と熱意で数年ぶりに甦りまし
た。この春の開花が楽しみです。また、霊
火堂横の大聖院 CAFE では鏡割り餅のおす
そ分けがあり、これを頂いた果報な会員も
何人か。

三鬼堂にお参りして、ここからおおよ
200 段上がり、大岩をくぐると、いよいよ
弥山山頂です。

新装なった展望台から、（次ページに続く）

みごとに晴れわたった天空へ今年の安全を祈願し、合わせて瀬戸内海 360 度の景観を満喫しました。そして、木の香る展望台を眺めながらの評論と昼食、集合記念写真です。



唐詩選に「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」とありますが、今年も健康にはとくに留意し、体力、気力そして智力とを醸し出すことに努め、次回の新春登山集合写真にも元気に納まることを期しました。

下山は大聖院コースとロープウェイ利用者若干名とに分かれ、いずれも予定通り無事下山しました。晴天に恵まれ有意義な一日でした。（文・村上光春 写真・足立 清）

環境省主催・『パークボランティア研修会』

日 時：2月1日（土）9：50～14：20
場 所：午前 宮島市民センター（座学）
午後 宮島水族館

主催：中国四国地方環境事務所広島事務所
出席者 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川

奥田 金山 川崎 河村 北野 黒木 五石
小林ペア 小林（寛）近藤 坂本 佐渡
佐藤（佐）佐藤（庸）末原 兎谷 中道
錦織 野呂田 平田（攻）平田（広）平野
檜和田 佛崎 松尾 松田 宮本 村上
山崎 山本 横路 呼坂 六重部

環境省 榊・柴原自然保護官 大高下 AR

本研修は昨年8月31日に行われる予定でしたが、悪天候により中止となり本日の開催となった。内容は以下のとおりです。

1. 「日本の国立公園前夜」（田村剛著の『国立公園』から） 自然保護官 柴原 崇

今年（2014年）3月は日本に最初の国立公園が指定されて80周年になります。1934年に国立公園制度がスタートするまでの経

緯を、日本の「国立公園の父」とも言われる田村剛氏の著書（小冊子）「国立公園」の内容を基に、国立公園のあるべき姿について、どのように考え、実際の制度に反映されていったかを話され、非常に時宜を得た内容でした。田村氏は当時「資源の収奪的な使い方」を戒め、「保護された景観を利用することが経済的にも有益」といった、ラムサール条約等でいう「ワイズ・ユース（賢明な利用）」を示されている。宮島の指定が戦後になったのも軍事施設とのからみがあったことも納得できることでした。

2. 「瀬戸内海の生物多様性について」

宮島水族館館長 塚本博一（水産学博士）

2011年8月にリニューアルオープンした宮島水族館（愛称：みやじマリン）。その時就任された塚本館長は、須磨海浜水族園等で飼育や研究に20年以上携わった「瀬戸内海」および「フジツボ」の専門家です。

講演の内容は「生物多様性」、特に「種間の多様性」の観点からで、水族館における多様性（海中の食物連鎖）、須磨に比べて宮島は自然が豊富（展示物の調達）、豊かさとは（瀬戸内海の面積や生物の種類、地中海との比較においての面積当たりの生産量）、多様性とは種類が多ければ（宮島の干潟の生物、外来種のエイ）、最後は専門のフジツボ（須磨と宮島における分布の差異）でした。最後に「宮島水族館を単なる観光施設でなく教育施設としてあるべき姿についての提言要請」を受けた。さて？



3. 「宮島水族館バックヤードツアー」

バックヤードは通常の公開部分よりも狭く、展示する生き物よりも設備や機械等が目立ち、「楽しい場所」ではありませんでしたが、スタッフの方々の日頃の苦労や工夫について話が聞けた。（次ページに続く）

見学は魚の給餌や餌を保管する大型冷蔵庫に入庫、使用する海水の導入経路、24時間体制の集中監視体制、ミヤジマトンボや企画展示用のカエル等の非公開のエリアまでも。さらに専用車で高知や鹿児島まで自ら魚類を確保しに行く話もありました。

(文・松尾健司 写真・足立 清)

【海岸漂着ゴミ回収事業】

入浜地区作業への参加

日 時：2月22日(土) 9:00～13:00

場 所：宮島 腰細浦、入浜

主催：(一社)広島県資源循環協会

参加者 岩崎 小川 奥田 恩田 川崎

黒木 小林ペア 小林(寛) 近藤 佐渡

佐藤(佐) 末原 中道 平田(広) 檜和田

松尾 松田 三次 村上 横路 柳瀬

他団体 廿日市市・ラムサール協議会・宮島水族館・MMM 21名 協会員約50名

主催者の協会は、廃棄物の適正処理の推進を図るため、平成18年度から毎年不法投棄撲滅活動の一環として、地域住民が対応出来ない廃棄物の不法投棄箇所を選定し、地域住民と協働して不法投棄物の撤去を行っています。今回の宮島での事業は、ミヤジマトンボの生息している島をクリーンにするということで、18年度に続き2回目の海岸漂着ゴミ回収事業です。



開
会
式

当日は冬には珍しく風のない晴天で、当会は、活動拠点の入浜を担当し、入浜池周囲の日頃の清掃作業で撤去できない大型や埋め立てゴミを精力的に回収しました。しかし 事前にゴミの量を見積りされたそうですが、ゴミの量が多く、積載車両の不足で入浜の分は積み残しとなり、翌週宮島支所職員の方が処理されたとのこと感謝。

ボランティア団体等との協働もさること

ながら、資源循環協会のCSR(社会貢献活動)は本事業の企画や作業で専門能力を発揮されたうえ弁当・お茶の提供まで及び感謝に絶えません。これからもこのようなコラボレーションが続くことを期待したいと思います。 当日処理したゴミの量は、2T車×6台、4T車×4台 65 m³でした。

(文・平田広三郎 写真・川崎昭壽)

入浜定点観測⑧

日 時：2月22日(土) 14:00～16:00

参加者 小川 奥田 小林ペア 中道

松田 横路

【植物班】 万両の実がたくさんついているのが印象的。ヤブツバキやアセビは徐々ではではあるが咲き始めている。シロダモの実も未だ残っているのが見られ、そして冬芽が長く伸びて春を待っているようです。

【水質調査班】

今日は池の水が大変少なく A 地点、B 地点以外は調査不能。F 地点だけは参考資料として 20m 先で計測する。

A 地点 塩分 0.19% COD 20 mg/l

B 地点 塩分 0.19% COD 13 mg/l

海水の塩分 2.8%

水の動きがないせいか池全体が濁っていた。

【鳥】 アオサギ、アオゲラ、コガモのペア、ヒドリガモを確認

【昆虫類】 トンボについてはデーター無し

その他はハイイロゲンゴロウが堆積物の下で越冬した状態で見つかる。

えびがたくさん確認されたがほとんどがミナミテナガエビでした。魚はチチブとかが群れで泳いでいた。泥の中にユスリカが冬越し状態で沢山いた。



ミ
ナ
ミ
テ
ナ
ガ
エ
ビ

(文・写真 小林 勲)

会員自主観察会

《 冬鳥観察会 》

日 時：1月25日(土) 9:00～13:00
場 所：・岩国市楠町「川下のクスノキ巨樹群及ムクノキ」～今津川
・門前川河口

天 候：曇り

参加者 岩崎 大西 奥田 小林ペア 近藤
佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 中道 平田(広)

2年ぶりに錦川の野鳥観察。寂地山を水源に持つ錦川は、途中に堰もなく、自然度の高い清流である。錦帯橋から河口までをとっていても瀬あり、淵あり、耕作地ありと多種の鳥の生息を可能にしている。飛行場が出来る前は冬鳥、春秋のシギ、チドリ、の渡りのメッカで、広島県民にとっても非常に身近なフィールドであった。月日は移り変わり、岩国地方卸売市場、福祉施設、浄化センター等の大型の建物が次々建つにつれ、鳥の姿は次第に消えていった。単純に鳥の数だけで言っても4～5年ごとに増減を繰り返している印象があるが、ここ15年位を見ていると減るばかりである。門前川をとっていても、一日五千羽～一万羽だったカモの群れを見ることもなくなった。

岩国藩の治水工事の際に植えられ、300年経つといわれるクスノキ巨樹群は、錦川にたっぷりの緑陰と鳥達の食堂、止まり木、繁殖地としての場所を提供している。今年もクスノキの実には豊作でヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、ムクドリ、キジバト等が飛び交っている。鳥の眼は人間の眼より数倍も視力が優れており、人より先に人の存在を認識し、安全度を図っているが、鳥見は人間には楽しみであっても、鳥にとっては「のぞき」であり、ハラハラ、ドキドキの時間であることを頭に置きたいところ。

今津川の土手を歩いていくと、ウグイス、ホオジロの仲間の地鳴きが聞こえた。堰近くの桜の梢には飛来したアトリ科のシメ(冬鳥)がおり、次には同じ科のイカルが群れをなして「ヒーコーキ」と泣きながらやってきた。堰周辺は冬の水辺の鳥オオバン、コガモ、ヒドリ、ヨシガモ、マガモ、オカヨシガモ等のほか、留鳥のイカルチド

リが、堰のコンクリート上で虫を探している。この鳥はコチドリより少し大きく河原を好む足長さんだ。イソシギ、セグロセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワウ等の常連がその近くを歩き回る。



門前川
のコガモ

手前の葦原の中に下りてゆくと冬の住人オオジュリンが6羽慌てて飛んでいった。干潮時とあって、何時も堰にいるカモメ等が少し下流の中洲に移動していた。北方からきているダイサギ、コサギ等も。

ここから元に戻って、タゲリ、タシギ各一羽が寂しく居た蓮田を通り抜け門前川河口に向かう。堤防に沿って車から海を眺めると、片目を空けて寝ているカルガモの中に鰯背(いなせ)なカンムリカイツブリと浮いたり、潜ったりしている仲間を確認する。昼食しながらハジロカイカツブリ、ウミアイサ等を見る。ここで30年以上岩国の観察している沢田千晶さんと合流。

その後東洋紡近くに移動し、ホンハジロを確認しようとしたが、港方面に移っていたためここで解散した。

この日出会えた鳥は、上記以外にミサゴ、スズメ、カモメ、セグロカモメ、トビ、ハシブトガラス、ジョウビタキ、メジロ、アオサギ、キンクロハジロで、最も可能性の高かったモズ、カワセミ、アオジ等が確認出来なかったのが非常に気がかりだった。

(文 近藤芳子 写真 大西 順子)

訃報 会員池田靖夫様は、平成25年4月30日ご逝去されました。享年72歳。

同氏は当会でのボランティア活動の傍ら、青少年の機械加工技能訓練に力を注がれ、またひろしま環境大学で自らの研鑽に努められていました。

ご冥福をお祈り致します。 合掌

会長 村上光春

『第一回アジア国立公園会議 (1st APC 仙台)』に参加して

投稿 松尾 健司

日 時: 11月13~17日(記念行事 11/12)

場 所: 仙台国際センター(宮城県仙台市)

(記念行事は東京都渋谷区・国連大学)

参加者: アジアを中心とする約 40 の国と地
域から約 800 人

会議のテーマは「国立公園がつなく」

会議の目的は、10 年に一度開催される
「世界国立公園会議」の第 6 回大会(豪・
シドニー)を翌年に控え、「アジアからのメ
ッセージ」の取りまとめと議論の過程にお
いてアジアの関係者間の課題や成果等がよ
り多く共有されることでした。

【記念行事】

皇太子殿下並びに妃殿下、環境大臣の臨
席の中「国際シンポジウム『生態系を基盤
とした防災・減災』」が開催され、仙台会議
のため来日した海外の有識者と震災の復興
に携わる日本の有識者が、自然と調和した
生活や文化が低コストで景観向上と地域に
おける生計への貢献等に副次的な効果を持
つことについて、講演や討議が行われた。

【開会行事・基調講演】

基調講演は、登山家の田部井敦子さんと
中央環境審議会会長の武内和彦ほかでした。
武内先生の講演は、震災の復興に向けて創
設された「三陸復興国立公園」の概要や自
然保護地域としての考え方や方針をわかり
やすく解説された。最後には、弥山を背景
に大鳥居が写る宮島を含めた日本の代表的
な景観 6 箇所がスライドに映し出された。



その他【ワーキンググループ(6 セッシ
ョン)】・【ポスター発表】など
【フィナーレ】

今回の取り組みの最大の成果である世界
会議に向けた「アジアからのメッセージ」
と共に、参加機関が今後連携・協力してい
く「アジア保護地域憲章(仙台憲章)」が採
択された。

「参加した感想」

アジアでは古くより自然と人々の暮らし
が調和し、欧米とは違った共存のスタイル
が図られ、東日本の震災の復興においても
重要なものにもなりうることを、強く認識
させられました。また、国立公園は、自然
を保護する地域として代表的なものであり、
今後ともその存在価値は増していき、私た
ち PV の活動もとても意義があることでは
ないかと感じました。

村上会長が「みせん」で報告された名古
屋での CBD-COP10 における取組み等を見
ても、これからの自然保護活動は、その制
度・仕組みの検討や国際会議においても、
政府関係者や研究者だけでなく、私達のよ
うなボランティアや NPO/NGO のメッセ
ージ、また取組みの事例等も重要です。

最後に環境省が参加者に配布した取組事
例集に、宮島のミヤジマトンボ保護活動が
掲載されていました。(宮島の詰所に抜粋を
置いていきますので見てください。)

【 みせん 俳壇 】

『極楽寺下見登山』 黒木隆信
岩肌を攀^よじる手もとの藪柑子^{やぶこうじ}
岨道^{そば}にこれ見よがしの貂^{てん}の糞^{まり}
片時雨^{かたしぐれ}駆け込む闇の阿弥陀堂
凍雲^{いてぐも}の烈け間しろがね海^{わた}の原
冬木陰^{こかげ}やぶ紫^{むら}の密^{ひそ}やかに
NHK TV 番組「ひろもり」優秀句
『すぐ切れと餅の塊^{かたまり} 提^{きた}げ来る』

◎ 寸 描 毎号「みせん 俳壇」に寄稿
されている黒木会員の一句が、上記番
組で今年一月の優秀句として披露され
ました。当会も多士済々で何よりです。
(投稿 村上 光春)

南大東島って？

(投稿 北野 孝幸)

南大東島！台風シーズンにはよく耳にする Word だ。那覇空港から小さな飛行機でゆくという南大東島に行く機会があり、昨年秋に訪れてみた。



『南大東島は周囲約 21 km、面積約 31 平方 km の楕円形の島。ちなみに宮島は周囲約 28 km、面積は約 31 平方 km の長方形の島ということからほぼ宮島に匹敵しているが、南大東島は最高点が塔も入れて 63m に対して宮島は弥山の 535m である。つまり、南大東島はほぼ円形で海岸から切り立ったサンゴ礁が盛り上がった海岸のない平坦な島である。周りは太平洋の荒波が打ち寄せるサンゴ礁の岸壁、その下は 4000m に切落ちた海の底だということを聞く。(島のガイド：東さんより)』

島は山のない中央部あたりに家が集合していて、丁度 お盆の周りが持ち上がって真ん中あたりが窪んでいるよう。

一日目は、ビジターセンターに勤務していたという東さんにナイトツアーを案内してもらおう。ナイトツアーで見るダイトウオオコウモリは広島で見かけるコウモリとは違い、「でか！」が、よくわかる！



ダイトウオオコウモリ

二日目は島内の半分近くの自然を見て回る。沖縄でよく見かけるオヒルギ群落地やこの島固有種のダイトウワダン等々本土では見られない自然を満喫します。

三日目は自分たちで島の残り半分の廻ります。ガイドさんがいない分、島のみなさんとの交流が島をより自分たちの近づけてくれます。地図でわからない時、「ここはどう行きますか？」「もう少し先だよ。案内しよう！」とか。ガイドさんも案内しないよ

うなマイナーな場所を自分たちでチョイスして行くのが旅の楽しみです。島の東側にそれがあ、磯の一面、コウライシバに覆われています。が、この年、二つの連続した大型台風により、芝は潮により枯れてしまったらしく、緑は見えなかった。そう！ここは台風のメッカなのです。でも小笠原諸島の人を先祖にするらしい彼らは今日も元気にここでサトウキビを糧に生きている。

また日本の天気予報を左右する高層バルーンの打ち上げがここでも行われていた。地上 1500m、或は 5000m の予報図などはバルーンあってできるものらしい。こういうのを説明してもらえる南大東島地方气象台がここにはある。



南大東島地方气象台

帰りの飛行機は別府湾から峨眉山そして宮島大砂利の風景を眼下にとらえ、広島空港に降り立った。

宮島二流記 (その 17)

平田 広三郎

Q17:「求聞持法とはどのようなものでしょうか？」

宮島を語るときは、空海（774～835）と求聞持法とはもはや切り離せないようですが、それにはまず求聞持法を知ることが大切です。ただ弥山で現在も修行中の方やその世話をする方に迷惑がかかってはいけませんので、本文はあくまでも参考文献の著者や本稿の筆者の見解であることを承知しておいてください。

A 17:「宮島は求聞持法を修めるのに絶好の場所なのです。」

求聞持法とは、「記憶が良くなる修法」と言いますが、「ひとたび耳目にふれた文章と意味をいずれも理解し、永久に心にとどめることができる」という功德を説くものです。もとは八世紀初めに中国に來たインドの密教僧・善無畏（ぜんむい）三蔵（637～735）によって訳出された「虚空蔵菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法」一卷です。財宝と智慧の仏である虚空蔵菩薩を本尊とする修法ですが、中国において梵本やチベット訳からではなく梵字から直接漢訳された密教の貴重な資料です。日本には養老二年（718）の遣唐使の戻り便で帰朝した大安寺の道慈律師（？～744）によって伝えられています。

修行の次第を説明しますと、場所は四国の太平洋側や宮島の南側のように東南西の三方見晴らせる処を最上とします。特に東方は虚空蔵化現の明星（金星）の光を道場に迎えるため明けておきます。本尊は西向きまたは北向きとし、修行者は東方か南方に向います。念誦法は虚空蔵法百座に百万遍の真言「ナウボ アキャシャ ギャラバヤオン アリキャ マリボウリ ソワカ」を念誦しますが、日数は五十日、七十日、百日など修行者に任されます。

日々の修行が一日二万回三座の場合ですと、午前 3 時、（水行のち）關伽水（あか）を汲み、山内にある諸堂を一時間かけて巡拝、誦経。午前 4 時～7 時、後夜行。午前 8 時～12 時、日中行。午後 1 時～6 時、初夜

行となります。食事は朝一回五穀（米・麦・粟・黍：きびまたは稗：ひえ・豆）を避け蕎麦粥です。砂糖は少しいようです。

それでは結願の時はどうかと言いますと、最後の晩の朝方に明星が自分の身に天下ったという夢を見なければいけません。空海は自叙伝「三教指帰」の中で、「ここに一（ひとり）の沙門（遊行する僧）あり、余に虚空蔵聞持の法を呈す。・・・土州（高知県）室戸岬に勤念す。谷、響きを惜しまず。明星、来影す。」と記しています。明星を見ないともう一度やり直すことになります。新義真言宗を開いた覚鑁（かくばん）上人（1095～1143）は六回もやり直されています。昭和のことですが、高野山の金山穆韶（ぼくしょう）という方は一度で見られました。この方は英語を知らなかったのですが、梵語やチベット語の辞書を引くのに英語が必要だったので、英語のアルファベットを覚えなくて一つの形で覚えられたのです。文例などをカメラのシャッターのように目をパチパチされて脳に写し込まれたのでしょう。算盤の暗算の時、目をつぶれば算盤が臉の裏側に浮かんで来るように、決して記憶しようとせず脳に写し込むようにするものだと考えればいいと思います。

それでは何故僧達はこのような過酷な修行が必要な求聞持法にこだわったのでしょうか。寺に属する正式の僧は修行に必要な経を憶えるため、また寺に属さない沙門達は自分達の住む雨風が吹き込む粗末な庵では当時高価な紙の経はすぐに破れて持てないため、高僧達の教えや貴重な経を耳と目から憶えるしかなかったからなのです。

宮島の昔の念誦は午前で終わる一日一万回百日だったので、午後は回峰行を兼ねて聖崎へ火を焚きに往復したことでしょうが、江戸時代に灯台が海上にできた以降一日二万回五十日に変わったと考えられます。

次回 Q18 は「空海と宮島のかかわりはどのようなものだったのでしょうか？」です。

＊参考文献

・NHK 人間講座「空海」 瀬富本宏

日本放送出版協会 2003 年

・「修行の本」(株) 学研パブリッシング 2010 年

・「空海の足跡」五来 重 角川選書 平成6年

「二十一町石」下半分発見!!

昨年11月末に「みせん 54号」の表紙の写真にと新展望台を撮影しに行った帰りのことでした。頂上下の「くぐり岩」の手前、毘沙門堂跡の入口の脇に石仏が置かれています。実はこの石仏は 町石の上半分の仏様の部分にあたり僅かに「二」の文字が有る為、町石と認定してきました。

何気なく川崎会員が「じゃあ下半分も付近に在るでしょう」とその左側の溝の土を払いのけると 何と下半分が埋もれているのを発見、文字があり「二十一町」と判明しました。思いがけない発見で川崎会員の功績大です。



しかしながら頂上付近にもかかわらず何故「二十一」なのか、謎は尽きません。

折に触れて まだまだ町石に関する新事実が出てくるものです。

「くぐり岩」定点観測を始めました

◎その1

頂上を下ったところの「くぐり岩」が芸予地震以来近年とみにずり落ちてきているとの声があります。データで実証するため、



定期的な計測を始めました。左の写真の位置で計測開始。

2014年1月11日現在高さ188cmです。

右上の写真は 2004年1月撮影。10年前のものと比べてみてどうでしょうか。



二〇〇四年一月 撮影

◎その2

同じく 皇太子殿下ご展望跡「二十四町石」の基部のコンクリートの隙間が拡大してきています。このままでは登山道に崩落する危険性があります。現在 隙間 2.5 cm。

右の写真は崩壊の危機のある「二十四町石」です。



(以上2件 文・写真 岩崎 義一)

◇ 編集後記 ◇

最近の古代史の本を読むと(私の少ない読書量の内ですが)、大陸～九州～瀬戸内海航路がクローズアップされてきています。従来は先に日本海側が大陸との接点と言われていました。そうすると宮島にも新たな展開が!ひとつつながりの「瀬戸内海」の言葉が現れるのは明治初期のことです。

(西田正則「瀬戸内海の発見」中公新書、H26. 1. 18. 読売新聞朝刊) (平田広)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450, FAX082-211-0455